

<確定稿>

第 1 回千代田区エリアマネジメント団体ガイドライン検討会議事要旨

日時	令和 6 年 9 月 10 日（火）13 時～15 時
会場	区役所 6 階 601 会議室
出席	委員 17 名（欠席 1 名）
議題	千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインについて （１）エリアマネジメントについて （２）千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの概要について

議事要旨

- 開会
- 委嘱状交付
- 委員自己紹介
- 委員長の選任
⇒委員長は野原委員とする。

資料等説明（事務局、長谷川委員より）

- （１）エリアマネジメントについて
- （２）千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの概要について

- 資料 1 に基づき、エリアマネジメント団体ガイドライン策定にあたり、エリアマネジメントや千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの位置づけなどについて説明された。
- 長谷川委員（株式会社フロントヤード/全国エリアマネジメントネットワーク事務局次長）よりエリアマネジメントの取組、全国の活動事例について説明された。
- 資料 2 に基づき、千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの概要について説明された。
- 資料 3 に基づき、千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの構成について説明された。

意見概要（（１）エリアマネジメントについて、（２）千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの概要について）

- 地域の合意形成のプラットフォームという意味で言うと、千代田区はステークホルダーが多様になっているため、町会の中で様々な合意形成を多方面にとることが難しくなった。また、町会自体の高齢化が進み、担い手不足でお祭りに参加できなくなったところもある。そういった中で、町会とエリアマネジメント団体との連携が必要になっているのではないかと。神田錦町三丁目町会で運営の担い手が確保できているように、町会の中で担い手不足があるとしたら、まちづくりから発生したエリアマネジメント団体とどう連携していくのか、お互いが不足しているところをどう補完していくのか、これからの千代田区のまちづくりや地域の経営にとって重要なのではないかと。エリアマネジメント団体のあり方を考える時、町会との関係性を含めて議論していけると良い。
- 資料 2 の P25 にあるように、町会の構成員不足は本当に深刻である。また、町会の 9 割以上が地元根付いた人であり、新住民はなかなか町会に入ってくれない。町会は儲けてはいけない立場なので、イベントなどをやるにしても活動費が不足している。

＜確定稿＞

- 町会にはイベントを発展させたり、新しく実施するためのノウハウが少ないため、地域にある学校・オフィス・新しくマンションに住んでいる方などのノウハウを借りたい。困っていることに対して、どうつないだら助けられるのかなど、つなぎ役をエリアマネジメント団体には担っていただきたい。
- 資金面では、商店街にはいろいろと支援があるが、今行っているエリアマネジメント協会には何の手立てないので困っている。かつてあった活動拠点がなくなり、資金もどんどん枯渇している。何か良い方法があると良い。
- 町会員数が減って、昔通りの活動ができなくなっているというのは、千代田区全体の問題であり、私の町会は約 20 年前にその課題に直面した。当時、積極的に周辺の企業に働きかけ、イベントをやる素地を作り、ようやく最近実を結び、外からも相当な人が来るまでになった。町会だけでやろうとすると、とても負担が大きいので、様々な既存の会社などにアプローチをして、共に連携をしていくスタイルを取らないと難しいのではないかな。
- 地域のコミュニティ醸成のため、地縁コミュニティの活性化や、アーバニスト（自分らしくまちに関わりながら都市生活を楽しむ）の考えを取り入れ、個人の思いから始まる活動づくりなどに取組んでいる。新しい住民の方は、子育てなどの共通のテーマを軸にした活動に関心を持つことが多いが、そうした活動は、地域と連携したくても、テーマコミュニティがゆえに地域とのつながりがなく難しさを感じるようである。そうした活動と地域がエリアマネジメントを通して繋がれると良いのではないかな。
- 本ガイドラインは、同じビジョンを持った人たちが、どうやって取り組みを始められるかという点に加えて、持続的に育てて発展させていけるかの手掛かりになるようなものになると良い。今回示された素案は、各項目について網羅的に充実した記載がある一方で、それが要点のつかみづらさにつながっていると感じる。P10 に記載の、「都市計画マスタープラン」「千代田区ウォークアブルまちづくりデザイン」に示す“地域の愛着”、“繋がり強化”、“繋がる都心”、“千代田区エリアマネジメント推進ガイドライン”に示す“まちを使いこなす”という方針を実現するためのガイドラインであることをまず冒頭に示すのがよいのではないかな。繋がる相手を求め、その繋がりがどんどん増えていくことが千代田区全体の魅力にも繋がっていく。町会の悩みやコミュニティの切り口といった話もあったが、既存の枠組みを超えた住民や立地企業等によらない関係人口のコミュニティ化や、公共空間などの地域の魅力や資源の発掘・活用をエリアマネジメント団体の活動の主体に据えると、団体の在り方やエリアの考え方の提示に繋がるのではないかな。また、活動の信頼性は団体の代表制や活動の蓄積による。エリアマネジメント“活動”の主体の分類に“個人”が存在し、関係人口たる個人が入りやすい入口を作る必要はあるかもしれないが、“エリアマネジメント団体”の役割と在り方を論じる際に、並びで“個人”が示されると論点が不明瞭になるので、記載の仕分けをした方が良いのではないかな。
- まちづくりとエリアマネジメントは被る部分もあるが、個人の活動と団体の活動というのは、別の枠踏みの方が良いのではないかな。
- 弊協会の収入の柱は主に公的空間活用とエリアマネジメント広告活動となるが、公共空間などでの活動では、道路の占用料や警備員の人件費が非常にかかる。また、エリアマネジメント広告はアートでも広告物とみなされる場合があり費用がかかっている。持続的な活動をしていくためには、そういった費用や新しい何かを取り入れていく際の制度活用などのサポートがあれば非常にありがたい。また、活動の幅が広がるので、目的が一致すれば、千代田区内の他団体や他エリアとも連携できると有意義である。

＜確定稿＞

- 千代田区の人口は6万8千人、そこに90万人が訪れ、学び、仕事をし、そして300人以上が何らかの形で通過している。そこでずっと生活しているか否かの分け隔てなく、このまちを良くしていくことを一つの共通目的として、みんなの意見を聞いていかないと良いものがないのではないか。また、郊外の住宅地とは違う意識を持ってエリアマネジメントを考えていかないと、異なる方向へ行ってしまうのではないかな。
- 新住民の地域への入り口としては、小学校が一つのプラットフォームになり得ると思う。また、企画する人たちと実行する人たちが別になって良いかわからないが、企画してくれれば手伝うという人材は、地元や地域にかなりいると思うので、エリアマネジメント団体であるとか、企業であるとか、いろんな団体の協力を得て、こういうことをやりたいというものを持って行った時、やり方のアドバイスや、手伝える団体などの情報を教えてもらえると、動きやすくなるのではないかな。
- 町会活動では、「気持ちよく暮らせるまち」ということを大事に考えているので、そこはエリアマネジメントの考え方にも通じるかと思うが、商店もほとんどない住宅街で、静かで安心して暮らせるまちを好んで越して来た人が多い中、エリアマネジメントがどう展開できるのか。また、新しいマンションができた時、マンション開発業者との関わり方など、持続的な連携が出来るかが課題である。
- 公共空間を使った施策が多いため、行政、警察等への折衝が欠かせない状況である。手続きも煩雑であり、業務ごとに交渉内容が異なり、テンプレートが作りにくい。また、公共空間を使った事業は多様なステークホルダーのベクトルを合わせることが大変で、継続的な実施が困難である。
- コロナ禍の国の規制緩和であったテラス営業を再び行うことで、飲食はさらに大きな効果を上げられると考えているが、ウォーカブルや子どもの遊び場創出も含め、賑わい創出を恒常的にするには、商店街として、申請から許可を得るまで、かなりの時間と労力がかかることが課題である。
- エリアマネジメントをこれから始める人も、始めている人にとっても参考になるようなものを策定できると良い。
- 町会は活動したいけれど人手がない、お金もないという時、地域貢献したいという企業とのマッチングのようなものもあって良いのではないかな。また、町会に入っていない方達の活動と既存の団体がバッティングしないよう、どうしたら上手くやっていけるかを考えていきたい。
- 設立当初から活動の幅が広がったという話が大丸有であったが、これからのエリアマネジメント団体は、社会的課題なども解決していくような団体になるのだと思う。また、今回のガイドラインは、やっている人が満足するような、みんな違ってみんな良いみたいな方が良いのではないかな。一般解を作ってしまうのは大変であり、勿体ない。どこでも適用できるというものより、千代田区で既にやられている沢山の実績をしっかりと束ねていき、最後に皆さん一緒にやりませんか？新しくやりませんか？といったようなものにした方が、ガイドラインとして伝わるのではないかな。そのためには、千代田区のモザイクというか、パッチワークみたいにになっているものを可視化していくことも大切ではないかな。
- 千代田区の中で、複数の地区を担当する人がいても良いのかもしれない。専門家がいくつかの地区を見ていき、エリアマネジメントとしてやるべきことをそれぞれの地域の皆さんと一緒に議論しながら作り上げ、活動は地域の皆さんなど、担い手の役割分担を明確化していった方が良いのではないかな。また、ガイドラインでは、住民と行政がエリアマネジメント団体に対して何を求めているのか、何を期待しているのかといったものを、もう少し解像度を高めていく必要があるのではないかな。区としては、規制緩和はもちろんだが、例えば各地区でどんなことをやっているのかという情報を集めて出すことも、区ができる支援の一つなので、どんな支援ができるかをもう少し考えても良いのではないかな。

＜確定稿＞

- エリアマネジメントは続くことが大事である。一方、続けると言っても 30 年後どうなっているかわからない。そういう意味では、柔軟性を持ちながら、エリアの外にいる人、横の連携など、全体をちゃんと見られる仕組みがあると良いのではないか。繋がる、続くやり方をアドバイスするのがこのガイドラインであり、大事な視点ではないか。

その他

- 参考 1 に基づき、検討会のスケジュールが説明された。

閉会